

グローバルスタディ【ブラジル/2024夏】

大学進学を勧めるために私たちが理解すべきもの

3班：久々江・竹久・壺井・仲東・羽根・三宅

☆目的

事前学習では、外国にルーツのある子どもの不就学要因は「親の就労」が大きいと記載されていた。しかし、私たちは「言語の壁による学習低下」が要因なのではないかと考えた。今回の活動では、外国にルーツのある子どもを理解することと、事前学習で用いた論文に記載されていない進学しない要因を探る。

☆GS期間中の主な流れ

- 事前学習(7月31日/8月1日,5日)
 - ・ブラジルと日本の移住の歴史について論文要約
 - ・インタビュー内容の作成・大学紹介動画
- 期中学習
 - ・CBK(8月20日,21日,23日,24日)
 - ・KICC(8月22日)
- 事後学習(8月29日,30日/9月2日)
 - ・ポスター作成・動画作成
 - ・最終レポート



GSブラジル 紹介動画

☆施設紹介【CBK/KICC】

【関西ブラジル人コミュニティ CBK】

日本語学習支援教室(子ども)や、母語教室、成人向け日本語教室等の「教育活動」。ブラジルの文化に触れることができる「文化交流」。母国語と日本語どちらも対応している「電話相談」等が行われている。

【神戸国際コミュニティセンター KICC】

外国人と日本人がお互いに交流を深めたり、外国人が日本語や日本文化を学ぶことができるスペース。主に「多言語相談・情報提供」、「日本語学習支援」、「国際交流・多文化共生事業」が行われている。

☆CBKでの学び

【言語習得・教育】

●日本語が話せる≠勉強ができる

・人とコミュニケーションをとる事ができても、学習用語を理解していないことが多い

●日本とポルトガル語のバランスが難しい

・日本語を学んでいる子にすべてポルトガル語で翻訳をしてしまうとやる気をなくしてしまう

【経済的】

●親世代はブラジルから日本へ出稼ぎに出てきている人が多い

●親が進学について関心が持てない

・親が帰国する前提で、日本語ではなく母国語を学ばせたい
・言語の壁を無くすためにCBKでポルトガル語と日本語の両方を修得できる

●両方の言語や文化を学び、将来に繋げてほしい

・自分の持っているルーツを大切にしてもらいたい



☆CBK インタビュー【Q&A】

・小学6年生Kさん/11歳の時に日本へ

Q1.日本の学校で一番難しいことは何ですか

A.漢字の習得が難しい

Q2.学校で不安に思っていること？

A.日本人とどうやって話せばよいかわからない→友達を作る事ができなくて、不安に思っている

・日本で生まれ育った日系2世の母

Q.両親と使う言語が違う事によって、困った事は何ですか

A.子どもは日本語、親はポルトガル語しか話すことができないことによって、思春期ならではの学校での悩みを相談することができなくて不安だった

☆KICC インタビューで得た学び

○インタビュー協力者

・ベトナム国籍の介護士Hさん/多文化交流員

・中国国籍の大学院生Yさん/多言語スタッフ

○学び

・外国人にとって日本で働くことで多様な問題がある

・言葉を覚えることは難しくなかったが、文章を書くという事が難しかった

・親が子どもの教育について不安に思っていなかった

・日本人が外国人についてどう思っているのかわからない



☆まとめ・考察

CBKでの学びで親世代が日本へ出稼ぎに出てきたことが分かった。親は自分たちの生活に精一杯で子供の教育まで考えることができない。だが、日本も共働きの家庭が増え、子どもの教育を考えられていると言われるとそうではないと考えた。言語による学習低下も大きな不就学要因であるが、それに関係なく、両親の教育に対する興味・関心が低いほど子どもたちの学習に影響があるのではないかと感じた。

☆改善策

●放課後に学校を開け、勉強会等を実施

⇒地域の人にも参加してもらい、住みやすい環境を作る
⇒親の負担を軽減

●学校に外国にルーツを持つ子どもが通う事になった場合、CBK等に務めている通訳を派遣もしくは、施設を紹介する